

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信



平成22年1月29日

上場会社名 株式会社 LTTバイオファーマ

上場取引所 東

コード番号 4566 URL <http://www.ltt.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 鈴木 巖

問合せ先責任者 (役職名) 取締役研究開発本部長

(氏名) 新居 泰

四半期報告書提出予定日 平成22年2月5日

TEL 03-5733-7391

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	78	△91.6	△319	—	81	—	87	—
21年3月期第3四半期	940	—	△536	—	△315	—	△111	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	663.89	—
21年3月期第3四半期	△844.74	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	1,580	1,350	1,350	1,350	85.4	10,240.79
21年3月期	1,541	1,262	1,262	1,262	81.9	9,576.90

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 1,350百万円 21年3月期 1,262百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	150	△88.1	△401	—	3	—	12	—	95.42

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 131,868株 21年3月期 131,868株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 一株 21年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 131,868株 21年3月期第3四半期 131,868株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.平成21年4月30日に公表いたしました通期業績予想から、修正は行っておりません。

2.本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上部記載のものと異なる場合があります。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益が緩やかな回復傾向をみせましたが、中国及びアジア向け輸出の増加やエコカー減税等の政策効果に依存しており、景気の自律的な回復については極めて弱い状況にあります。当社の属する医薬品業界は、新薬開発という観点において全般的に画期的新薬の創出が不足していることに加え、大手製薬会社を中心とした主力薬の特許失効や医療費抑制政策等によって厳しい状況にあります。一方で後発医薬品の使用拡大という流れからジェネリック分野は堅調に推移しております。

このような状況のもと、当社が主力とする創薬事業においては、次の世代を担う画期的新薬の開発が求められており、当社は当第3四半期連結累計期間において、以下のような取り組みを行って参りました。

NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）のイノベーション推進事業に採択された「PC-SODのネブライザーを用いた吸入投与」について、非臨床試験を開始しました。これは、ネブライザーを用いた投与の安全性をラットにより確認するもので、当社はこれまでに静脈内投与ではラット及びヒトに対しての安全性を確認しているため、ネブライザーを用いた投与でも安全性が確認されるものと想定しております。この非臨床試験の結果をもとに、平成22年3月期末までにはヒトに対してネブライザーを用いた投与による第I相臨床試験を開始する見込です。

当第3四半期連結累計期間の業績は、中国での医薬品上市を目的とした中国プロジェクトの一環として原薬の販売を行ったこと等により、創薬事業の売上高が53,913千円となりました。主要パイプラインについては、アジアを中心とした国々で秘密保持契約等を締結し、ライセンスアウトに向けた交渉を続けており、その他の基礎研究段階にある末梢血管病変を対象疾患とした第3世代のPGE1製剤「ナノPGE1」及び前事業年度より新たにパイプラインに加わった副作用が少ない新しい非ステロイド系抗炎症薬「NSAID」等につきましても早期に研究を次のステージに進めるため、継続して複数の製薬会社と共同研究の実施に向けた交渉が継続中であります。その成果の一つとして、旭化成ファーマ株式会社と共同研究開発契約を締結するに至りました。内容は、旭化成ファーマが所有する化合物を、当社が研究しているステルス型ナノ粒子に封入することで、新たなDDS製剤の研究開発を共同で実施することとしたものです。今後は、この共同研究開発が医療に貢献できるよう、新規医薬品創出の実現を図って参ります。

EIP事業の当第3四半期連結累計期間の売上高は24,422千円となりました。当社の技術を利用したEIP枠及び曰は、「第8回医薬品添加剤と製剤セミナー（主催：日新化成株式会社）」、「第19回固形製剤処方研究会シンポジウム（主催：固形製剤処方研究会）」、新規顧客の開拓活動等を通じて認知度は着実に向上しております。将来の受注につながる付着試験は、第2四半期と比較して大幅に増加しており、今後も業界を問わず製造工程における粉体の付着問題解決をテーマに販路を拡大して参ります。

以上のことから、当第3四半期連結累計期間の売上高は78,335千円（前年同四半期比91.6%減）、営業損失は319,031千円（前年同四半期は営業損失536,229千円）、経常利益は81,587千円（前年同四半期は経常損失315,619千円）、四半期純利益87,545千円（前年同四半期は四半期純損失111,394千円）となりました。なお、前年同四半期比の売上の減少については、平成21年2月において連結子会社であった株式会社ソーレの全株式を譲渡したことによるものであります。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

#### (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前期末に比べ39百万円増加し、1,580百万円となりました。負債につきましては前期末に比べ47百万円減少し230百万円となりました。純資産につきましては、前期末に比べ87百万円増加し、1,350百万円となりました。これらは、当第3四半期連結累計期間の四半期純利益が受取配当金等で87百万円計上されたことにより純資産が増加しているほかは、特別な変動要因はありません。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前期末に比べ117,379千円増加し、764,432千円となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次頁のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、72,794千円の収入（前年同四半期は△232,078千円）となりました。主なプラス要因は税金等調整前四半期純利益91,587千円、特許権償却28,125千円、減価償却費22,990千円等によるものであり、主なマイナス要因は未払金の減少額40,856千円、前渡金の増加額18,546千円、売上債権の増加額12,211千円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、敷金の回収による収入により44,585千円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローはありません。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想ついて、創薬事業の売上は現在のところ概ね計画どおりに進捗しております。E I P事業の売上は第3四半期連結累計期間で当初見込を下回っておりますが、現在創薬事業のライセンス等で交渉中の案件があるため当社グループとしては通期で連結売上高150百万円を見込んでおります。費用は、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の助成により当初計画を前倒して進めている「PC-SODの吸入投与」の研究開発費が計上される見込ですが、NEDOからの助成金と期末に向けてのライセンス活動により吸収できる見込です。従いまして、平成21年4月30日に公表しました連結業績予想から修正は行っておりません。

### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）  
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

前第3四半期連結会計期間において、投資その他の資産の「投資有価証券」及び流動負債の「未払法人税等」は区分掲記しておりましたが金額的重要性が減少したため、当第3四半期連結会計期間より「その他」に含めて表示することとしました。なお、当第3四半期連結会計期間の投資その他の資産の「その他」に含まれる「投資有価証券」は7,580千円であり、流動負債の「その他」に含まれる「未払法人税等」は135千円であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	869,432	752,052
受取手形及び売掛金	27,899	15,687
その他	43,352	35,289
流動資産合計	940,684	803,030
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,160	5,160
減価償却累計額	△771	△143
建物(純額)	4,388	5,016
機械及び装置	83,301	46,680
減価償却累計額	△24,695	△10,955
機械及び装置(純額)	58,605	35,725
工具、器具及び備品	20,236	21,048
減価償却累計額	△5,567	△6,136
減損損失累計額	△14,178	△14,178
工具、器具及び備品(純額)	489	732
建設仮勘定	—	47,250
有形固定資産合計	63,484	88,724
無形固定資産		
特許権	187,500	215,625
無形固定資産合計	187,500	215,625
投資その他の資産		
長期預金	300,000	300,000
破産更生債権等	240,000	356,589
その他	89,218	133,804
貸倒引当金	△240,000	△356,589
投資その他の資産合計	389,218	433,804
固定資産合計	640,202	738,153
資産合計	1,580,886	1,541,184

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,682	554
未払金	179,938	220,794
債務保証損失引当金	30,000	30,000
その他	1,396	11,953
流動負債合計	218,017	263,303
固定負債		
退職給付引当金	9,822	8,653
役員退職慰労引当金	1,400	1,400
その他	1,214	4,940
固定負債合計	12,436	14,993
負債合計	230,454	278,297
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,852,558	1,852,558
資本剰余金	—	7,784,433
利益剰余金	△502,126	△8,374,105
株主資本合計	1,350,432	1,262,887
純資産合計	1,350,432	1,262,887
負債純資産合計	1,580,886	1,541,184

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	940,906	78,335
売上原価	695,082	38,310
売上総利益	245,824	40,025
販売費及び一般管理費		
研究開発費	217,800	136,435
その他	564,253	222,621
販売費及び一般管理費合計	782,054	359,057
営業損失(△)	△536,229	△319,031
営業外収益		
受取利息	810	412
受取配当金	—	385,914
持分法による投資利益	215,499	—
その他	5,065	14,292
営業外収益合計	221,376	400,619
営業外費用		
その他	766	—
営業外費用合計	766	—
経常利益又は経常損失(△)	△315,619	81,587
特別利益		
受取保険金	100,000	—
貸倒引当金戻入額	—	10,000
その他	3,688	—
特別利益合計	103,688	10,000
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△211,931	91,587
法人税、住民税及び事業税	17,020	4,042
法人税等調整額	△117,556	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△111,394	87,545

(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	318,975	35,545
売上原価	241,376	30,099
売上総利益	77,598	5,446
販売費及び一般管理費		
研究開発費	55,183	49,858
その他	114,869	47,103
販売費及び一般管理費合計	170,052	96,961
営業損失(△)	△92,453	△91,515
営業外収益		
受取利息	100	102
補助金収入	—	10,831
その他	270	1,125
営業外収益合計	371	12,058
営業外費用		
その他	766	—
営業外費用合計	766	—
経常損失(△)	△92,848	△79,457
税金等調整前四半期純損失(△)	△92,848	△79,457
法人税、住民税及び事業税	4,510	3,347
法人税等調整額	304	—
四半期純損失(△)	△97,663	△82,804

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△211,931	91,587
減価償却費	8,110	22,990
のれん償却額	23,571	—
無形固定資産償却費	28,125	28,125
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△21,882	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△3,688	1,169
賞与引当金の増減額(△は減少)	△2,292	—
受取利息及び受取配当金	△810	△386,327
受取保険金	△100,000	—
持分法による投資損益(△は益)	△215,499	—
売上債権の増減額(△は増加)	△14,632	△12,211
たな卸資産の増減額(△は増加)	△41,414	—
前渡金の増減額(△は増加)	35,119	△18,546
仕入債務の増減額(△は減少)	117,474	6,127
未払金の増減額(△は減少)	△90,296	△40,856
預り金の増減額(△は減少)	△190,247	—
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	19,627
その他	11,925	△21,522
小計	△668,370	△309,838
利息及び配当金の受取額	370,197	386,426
保険金の受取額	100,000	—
法人税等の支払額	△33,905	△3,793
営業活動によるキャッシュ・フロー	△232,078	72,794
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	105,000	—
有形固定資産の取得による支出	△47,250	—
敷金の回収による収入	—	44,585
投資活動によるキャッシュ・フロー	57,750	44,585
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△174,328	117,379
現金及び現金同等物の期首残高	411,360	647,052
現金及び現金同等物の四半期末残高	237,032	764,432

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)

	創薬事業 (千円)	調剤薬局事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	20,385	920,520	940,906	—	940,906
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	20,385	920,520	940,906	—	940,906
営業利益 (△損失)	△582,052	45,822	△536,229	—	△536,229

1. 事業内容及び商品、用途、販売方法等を考慮して事業区分を行っています。

2. 各事業の主な商品、事業内容

- (1) 創薬事業 DDS技術を利用した医薬品、ならびに化粧品に対するロイヤリティ収入等
- (2) 調剤薬局事業 医療用医薬品、一般薬の販売

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

	創薬事業 (千円)	E I P 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	53,913	24,422	78,335	—	78,335
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	53,913	24,422	78,335	—	78,335
営業利益 (△損失)	△296,738	△31,517	△328,256	9,225	△319,031

1. 事業内容及び商品、用途、販売方法等を考慮して事業区分を行っています。

2. 各事業の主な商品、事業内容

- (1) 創薬事業 DDS技術を利用した医薬品、ならびに化粧品に対するロイヤリティ収入等
- (2) E I P 事業 E I P 製品等の表面改質化技術を用いた製品の販売

3. 事業区分の方法の変更

事業区分の方法の変更については、従来、当社グループにおける重要性の観点から、前連結会計年度において設立したE I P 事業を営む(株)マシンパーツ販売を創薬事業に含めて表示しておりましたが、創薬事業におけるE I P 事業のセグメントに占める割合が高くなったため、E I P 事業を創薬事業から分離して表示することとしました。なお、この変更による創薬事業への影響額はありません。

また、前連結会計年度において調剤薬局事業を営んでおりました(株)ソーレの全株式を譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より「調剤薬局事業」のセグメントを廃止しました。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日) 及び当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が100%であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

## 〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年12月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年12月31日）

	アジア	計
I 海外売上高（千円）	47,200	47,200
II 連結売上高（千円）		78,335
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	60.2	60.2

(注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

(1) アジア・・・・・・中国、韓国

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は第1四半期連結会計期間において、会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金7,784,433千円を減少し、その他資本剰余金を同額増加しました。同時にその他資本剰余金を7,784,433千円減少し、繰越利益剰余金を同額増加しました。

## 6. その他の情報

該当事項はありません。